

番号	2	令和3年度公共事業再評価調書		担当課名 農地保全課			
事業名	中山間地域総合整備事業		事業主体	静岡県			
箇所名	松崎		関係市町	松崎町			
事業採択年度	平成23年度		工期	平成23年度～令和6年度			
再評価理由	事業採択（H23）後10年経過		工事着手年度	平成24年度			
事業費 （百万円）	全体計画事業費		R1年度まで	R2年度	R3年度見込	R4年度以降	
	1,061		568	120	80	293	
事業量	農業生産基盤整備						
	農業用排水路	延長3,073 m	1,975 m	137 m	312 m	649 m	
	農道	延長3,960 m	2,903 m	138 m	302 m	617 m	
	区画整理	面積 5.6 ha	-	-	(2.8) ha	5.6 ha	
	農村振興環境整備						
	農業集落道	延長1,890 m	34 m	346 m	-	1,510 m	
	集落防災安全施設	1箇所	1箇所	-	-	-	
事業概要	<p>(1) 事業目的 松崎町は、かつては農業を含む第一次産業が盛んだったが、就業者数が年々減少し、昭和60年頃からは観光業を含む第3次産業が基幹産業となった。 さらに、基盤整備の遅れから農業の衰退による優良農地の荒廃が進み、営農することで保たれていた景観も損われ、観光客数も減少傾向にあったため、平成22年度に松崎町が「自然・田園・文化が彩る花とロマンの里づくり」をキャッチフレーズとする活性化構想を策定した。 活性化構想を実現するため、県営中山間総合整備事業を実施し、生産基盤としては農業用排水路、農道、区画整理の実施により農業の生産性向上と付加価値の高い特産物の生産拡大を図り、生活環境の整備としては集落道と防火水槽を整備し、利便性や安全性の向上を図っていく。 本事業の整備により、観光業と連携した特産品開発やグリーンツーリズムとの連携などにより地域全体での活性化を目指す。</p> <p>(2) 事業内容 受益面積 A=59.5ha ・農業生産基盤整備：農業用排水路 3,073m、農道 3,960m、区画整理 5.6ha ・農村振興環境整備：農業集落道 1,890m、集落防災安全施設 1箇所</p>						
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化 本地区は、過疎化や高齢化により地域や農業の担い手が不足しており、耕作放棄地も増加傾向にある。そのため、農道や排水路のきめ細やかな整備による営農の省力化や、区画整理による「桜葉」等の特産物の生産拡大により農業の振興を図るとともに、美しい田園風景などの良好な農村環境も保全していく。 また、水田を利用した花畑の散策路としての農道の利用や、整備した集落道を利用したイベント参加など、この地域ならではの豊かな農村環境を活用し、農地や農道等と連携したグリーンツーリズムを展開して都市農村交流を推進していく。</p> <p>(2) 事業の投資効果 総便益 (B) : 1,848,790千円 総費用 (C) : 1,319,212千円 総費用総便益比 (B/C) : 1.40 経済的内部収益率 (EIRR) : 8.1%</p> <p>(3) 事業の進捗状況 (R3年度末見込み) R4年度以降残事業 事業費ベース進捗率 : 72.4% 農業用排水路649m、農道617m 事業量ベース進捗率 : 63.1% 区画整理5.6ha、農業集落道1,510m</p>						
事業の必要性	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</td> </tr> </table>					評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない
評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない						
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>松崎町と地元関係者は事業の推進に積極的であり、事業は概ね順調に進捗している。 区画整理については、国交省の建設発生土を有効活用することによりコスト縮減を図りながら令和6年度の完了予定で事業を進めていく。 農道については、手続きに時間を要した未相用地等の課題が解決し、今後は順調に進めることが可能であり、農業用排水路とあわせて令和5年度に完了する見込みである。 集落道については、既設利用可能な区間は事業対象から外すなど、効率的な事業執行により令和6年度に完了する見込みである。</p>						
【視点3】 コスト縮減・代替案立案等の可能性	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</td> </tr> </table> <p>水田畑地化に必要な基盤盛土について、伊豆縦貫自動車道の建設発生土を有効活用することでコスト縮減を図る。整備エリアの表土はぎ取り、盛土、整地等は建設発生土を搬入する国交省側で実施するため、本事業のコスト縮減が図られるとともに、残土活用により国交省工事のコスト縮減にも貢献する。</p>					評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない
評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない						
対応方針案	<p>(1) 対応方針案 本事業を（継続・見直し後継続・中止）する。</p> <p>(2) 理由 農業生産基盤整備により農業の生産性が向上し、営農が継続されている。また、今後の区画整理により、特産物である桜葉等の経営面積の拡大が見込まれる。他事業と連携し、町が策定した「活性化構想」の実現による地域全体の活性化に繋げるよう、事業を継続する。</p>						

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地保全課

事業名	中山間地域総合整備事業	地区名	松崎	(まつざき)																									
効果の算定																													
総 便 益 額 の 内 訳	作物生産効果 区画整理や農業用排水路の整備により、中干などの水管理作業が計画的に行われ、作物増収の効果が発生する。 [便 益] = 575,814 千円																												
	品質向上効果 農業集落道の整備により、悪路輸送による生産物（温州みかん等）の荷痛みが防止され、品質向上の効果が発生する。 [便 益] = 10,418 千円																												
	営農経費節減効果 区画整理に伴う作付体系の変化や、農業機械の利用効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。 [便 益] = 190 千円																												
	維持管理費節減効果 農業用排水路、農道、区画整理内の耕作道路や用排水路などの整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 [便 益] = △ 49,487 千円																												
	営農に係る走行経費節減効果 農道整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。 [便 益] = 809,080 千円																												
	国産農産物安定供給効果 区画整理や農業用排水路の整備による農地や水利条件の改善により、国産農産物の安定供給が図れるため、国民が感じる安心感の効果が発生する。 [便 益] = 154,654 千円																												
	維持管理費節減効果（農業生産以外） 農業集落道の整備により、道路拡幅による舗装面積の増加に伴い、草刈り等の維持管理費の節減効果が発生する。 [便 益] = 13,170 千円																												
	地籍確定効果 区画整理の換地業務を実施することで、地籍が明確となるため、国土調査を実施した場合と同様の効果が発生する。 [便 益] = 8,852 千円																												
	生活環境改善効果 農業集落道の整備により、従来より道路幅が広がることで集落間を安全で快適に移動することが出来るため、生活環境が向上する。 [便 益] = 297,422 千円																												
	災害時応急対策効果 農業集落防災安全施設の整備により、火災時の消火や防火の効果が発生する。 [便 益] = 28,677 千円																												
	総便益																												
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">575,814</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">10,418</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">190</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">-49,487</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">809,080</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">154,654</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">13,170</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">8,852</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">297,422</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">28,677</td> <td style="text-align: center;">+</td> <td style="text-align: right;">=</td> <td style="text-align: center;">=</td> <td style="text-align: right;">1,848,790</td> <td style="text-align: center;">=</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> </table>				575,814	+	10,418	+	190	+	-49,487	+	809,080	+	154,654	+	千円	13,170	+	8,852	+	297,422	+	28,677	+	=	=	1,848,790	=
575,814	+	10,418	+	190	+	-49,487	+	809,080	+	154,654	+	千円																	
13,170	+	8,852	+	297,422	+	28,677	+	=	=	1,848,790	=	千円																	
総 費 用 の 内 訳	総費用																												
	①	事業着手時の資産価額	46,031	千円（既施設の資産額を減価償却により整理）																									
	②	当該事業費	1,130,205	千円（当該事業で整備する施設費用）																									
	③	関連事業費	0	千円（当該事業に関連する施設の費用）																									
	④	評価期間における再整備費	296,614	千円（工事期間+40年の評価期間内の再整備費）																									
⑤	評価期間終了時点の資産価額	153,638	千円（工事期間+40年の評価期間終了時の資産額）																										
総費用 = ① + ② + ③ + ④ - ⑤																													
1,319,212 千円																													
総費用総便益比																													
①総便益 1,848,790 千円																													
②総費用 1,319,212 千円																													
総費用総便益比 = 1.40																													

●事業の必要性等

①農業の振興と良好な農村環境の保全

事業実施前（荒廃農地が存在）



事業実施後（荒廃農地解消）



・事業実施後、営農が省力化されたことにより荒廃農地が解消された。

②施設整備を活かした地域づくりとの連携



・水田を活用した花畑イベントの散策路として、整備した農道を利用。
 ・地域ならではの豊かな農村環境の保全、都市農村交流が拡大している。

●事業効果の発現状況

農道・農業用排水路

事業実施前（狭い畦道）



事業実施後（幅員3mの舗装道路）



・農道の整備により、農地への通作や農作物の運搬など生産性が向上し、営農の継続が図られている。

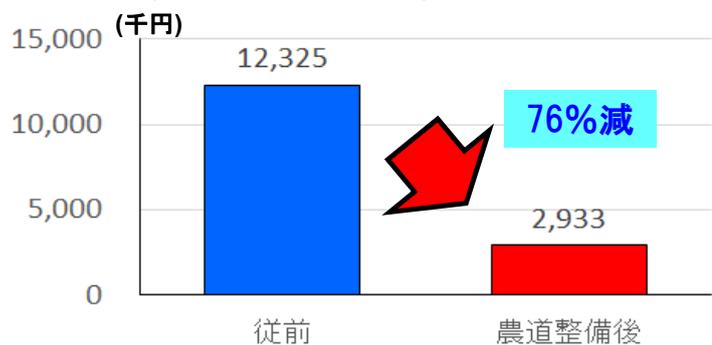
走行経費節減効果

・徒歩による運搬



・軽トラック等による運搬

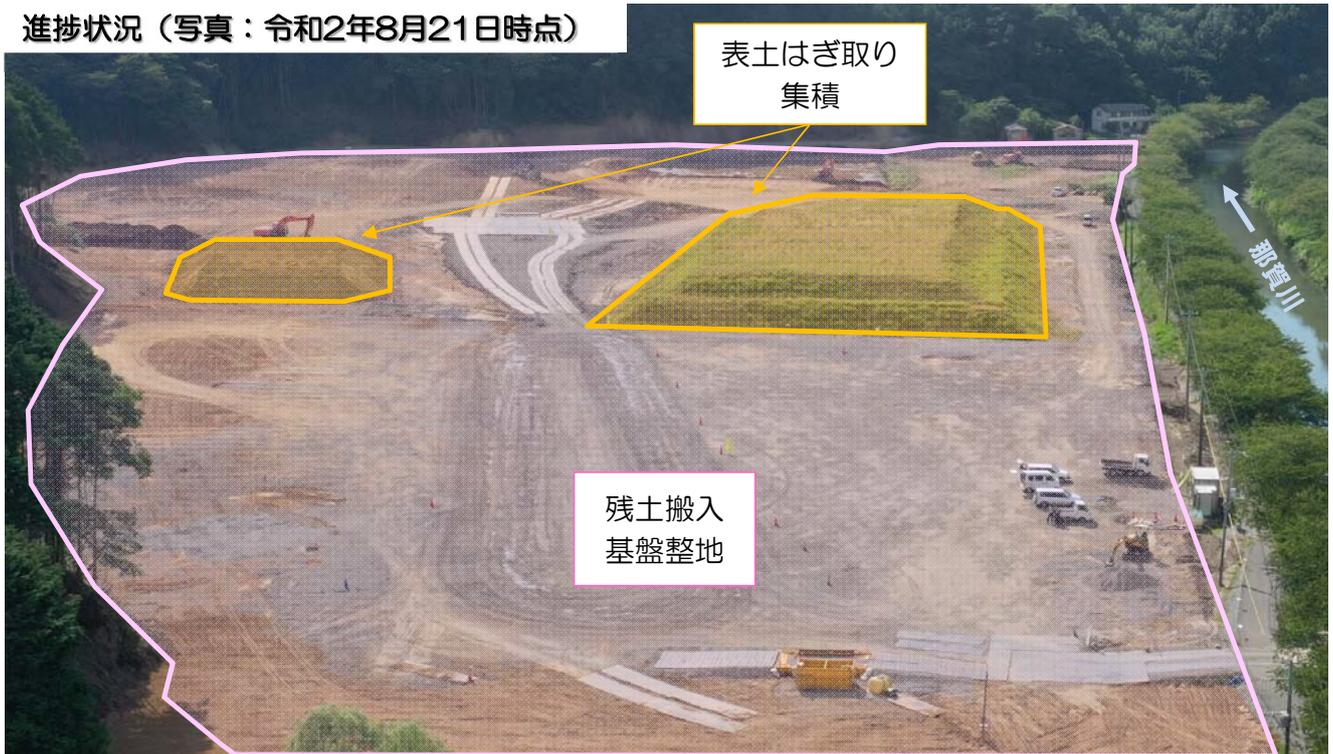
営農に係る走行経費節減(江奈地区)



●今後の事業の進捗見込み

①区画整理工の進捗

進捗状況（写真：令和2年8月21日時点）



- ・国交省による伊豆縦貫自動車道の建設発生土約21万m³を利用した盛土、整地工事がR2末に概ね完了。
- ・本年度から区画整理工事に着手、令和6年度の完了を目指す。

②区画整理工のコスト縮減

本事業のコスト縮減
121,500千円

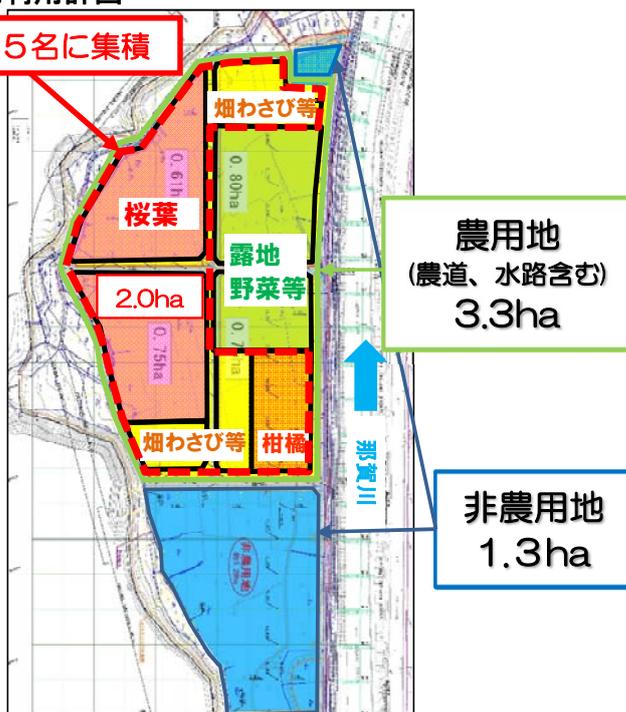
- ①表土はぎ取り・集積 25,000千円
- ②基盤整地 96,500千円
- ①+② 121,500千円

国交省工事のコスト縮減
729,000千円

- ①残土運搬・処分費 1,720,700千円
- ②搬入準備費 121,500千円
- ③現場への残土搬入 870,200千円
- ①-②-③ 729,000千円

③農地利用計画

借受者5名に集積



- ・鮎川工区について、従前は水田であったが、区画整理を契機に畑地に転換する。
- ・担い手への集積及び桜葉等の高収益作物の生産増加を図る。